

富山県障害者社会参加 推進センターだより

第 32 号

編集・発行

富山県障害者社会参加推進センター
〒930-0094 富山市安住町5-21
富山県総合福祉会館(サンシップとやま) 3階
Tel (076) 444-0213 Fax (076) 433-4610
E-mail
fjp25520@nifty.com
ホームページ
https://www.toyamashin.jp/



イオンモール高岡にて



池田潤哉さん(蟹)

10月2～4日、第26回富山県障害者絵画展をイオンモール高岡で開催しました。今回は97点の出品があり、特別出展として池田潤哉さんの魚や植物を描いた作品が展示され多くの方に観覧いただきました。

第26回富山県障害者絵画展開催



新川園域(入善町 コスモ21にて)

令和2年度の地域障害者作品展を県内4箇所(富山市・入善町・高岡市・砺波市)において開催しました。この事業は、障害者施設や障害者団体の作品、社会参加推進センター事業のワークショップでの陶芸教室と写真教室での作品を展示し、多くの県民の皆さんに観覧いただきました。

令和2年度地域障害者作品展開催

「ごめんねはいらないよ。ありがとうだけでいいよ。」
これは、宿泊学習で急な坂道を登る時、後ろから押してくれた友達がかけてくれた言葉です。ぼくは生まれつき足にまひがあつて歩行器や車椅子を使って生活しています。友達に助けってもらうことも多く、ぼくはいつも、「ごめんね。」と言っていました。でも、このときの言葉で、仲間として認めてもらえてることを実感しています。この仲間と出会えて良かったと思つたことを今でも覚えています。小学校に入学会した時、それまでは療育センターに通つていて障害のある子としか過ごしたことがありませんでした。ぼくは支援級

「心の輪を広げる体験作文」最優秀賞 【小学生の部】

知ること、それが第一歩

富山市立堀川小学校六年 吉越 帆高さん

毎年12月3日～9日は「障害者基本法」により「障害者週間」と規定されており、富山県では毎年「心の輪を広げる体験作文」や「障害者週間のポスター」を県民から募集しています。今年度の体験作文の最優秀賞は、小学生の部では、富山市立堀川小学校6年吉越帆高さんの「知ること、それが第一歩」(この作品は、令和2年度小学生の部で内閣総理大臣賞に輝きました) 中学生の部では、氷見市立北部中学校1年山田美希さんの「障害という個性を超えて」、また、高松生部の部では、富山県立南砺福野高等学校1年松井彩吹さんの「違いなんてない」が選定されました。
また、ポスターの部において中学生の部では、最優秀賞に「覚えよう つながろう」射水市立小杉中学校2年荒木愉陽さんの作品が選定されました。最優秀作品を紹介します。

令和2年度「心の輪を広げる体験作文」および「障害者週間のポスター」募集事業

毎年12月3日～9日は「障害者基本法」により「障害者週間」と規定されており、富山県では毎年「心の輪を広げる体験作文」や「障害者週間のポスター」を県民から募集しています。今年度の体験作文の最優秀賞は、小学生の部では、富山市立堀川小学校6年吉越帆高さんの「知ること、それが第一歩」(この作品は、令和2年度小学生の部で内閣総理大臣賞に輝きました) 中学生の部では、氷見市立北部中学校1年山田美希さんの「障害という個性を超えて」、また、高松生部の部では、富山県立南砺福野高等学校1年松井彩吹さんの「違いなんてない」が選定されました。
また、ポスターの部において中学生の部では、最優秀賞に「覚えよう つながろう」射水市立小杉中学校2年荒木愉陽さんの作品が選定されました。最優秀作品を紹介します。

【お問い合わせ先】

社会福祉法人富山県聴覚障害者協会
富山市木場町2-21
TEL (076) 441-7331
FAX (076) 441-7305
メール info@tomichokyo.or.jp
ホームページ
http://www.tomichokyo.or.jp/index.html

● 難聴の方へ。

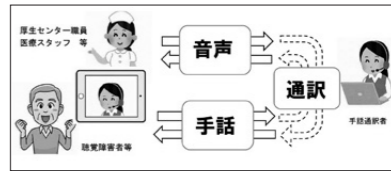
難聴・中途失聴者の方は、要約筆記者派遣事業が利用できます。身体障害者手帳があれば、無料で派遣できます。問合せ、依頼は本会まで。ぜひご利用下さい。
要約筆記者派遣事業をご利用ください。
難聴・中途失聴者の方は、要約筆記者派遣事業が利用できます。身体障害者手帳があれば、無料で派遣できます。問合せ、依頼は本会まで。ぜひご利用下さい。

● 記録的な大雪、除雪機が大活躍！

1月7日(木)夜より降り続いた大雪。富山県聴覚障害者センターの駐車場も35年ぶりという1mを超える積雪となり、1月8日(金)から15日(金)まで、休館日を除きセンター職員が総出で連日除雪にあたりました。スノーダンプでは広々とした駐車場の除雪に時間がかかりました。平成25年度に購入した除雪機が大活躍しました。女性職員も操作方法を覚えてもらい職員交代で除雪機を操作しました。おかげで15日午後、駐車場の除雪が終わり、すっかりきれいになりました。

＜事前登録の方法＞

- (1)ご自身のスマートフォンやタブレットに「Skype (スカイプ)」アプリをインストールしてください。Android (アンドロイド)の場合は「Playストア」、iPhone (iPhone) (iPhone)の場合は「App Store」から「Skype」アプリをダウンロードし、インストールして下さい。(2)富山県聴覚障害者協会に電子メールアドレスはFAXで、次のことをご連絡ください。(3)折り返し富山県聴覚障害者協会のアカウント(Skype名)等をご連絡します。(4)住所、氏名、メールアドレス、氏名、その他特記事項



● コロナ対策として富山県

遠隔手話通訳サービスが利用できます！
新型コロナウイルスは感染力が強いため、聴覚障害者等が厚生センターでの相談や病院等を受診する際、手話通訳者等を派遣することが困難です。代わりに自分のスマートフォンやタブレットで「遠隔手話通訳」を受けられるサービスが2020年9月より始まりました。コロナの他に災害時や緊急時にも利用できます。なお、当協会に新たにタブレットが3台入りました。そのうちの2台はスマートフォンを持ってない方のために貸し出しを行うものです。

聴覚障害者のひろば

第47回富山県視覚障害者球技大会
グランドソフトボール、サウンドテニス大会
第30回北信越サウンドテニス大会 新潟県

以上の事業の他、文化・スポーツ・家庭生活を支援する各種教室、点字・パソコン・歩行指導、点訳・音訳ボランティア養成・研修事業等、視覚障害者の社会参加促進活動を通して実施しています。
【お問い合わせ先】
〒930-0077
富山市磯部町3丁目8番8号
TEL (076) 425-6761
(福)富山県視覚障害者協会事務局まで

なのですが、交流級にも行くことになり、初めて行く時はみんなの迷惑にならないかとか、一緒に過ごしていけるかなど、とても心配で不安でした。けれど、すぐにみんな話しかけてくれ、とてもほっとしました。しかし、いやなこともありました。それは、周りのみんなに「どうして歩行器を使っているの。」と、ひんばんに聞かれたことです。当時はどうやって答えればいいのか分からず、泣いてしまったり黙ってしまったりしました。でも、勇気を出して答えているうちに、聞いてくれた子が周りの子に教えてくれていたり、「街中で車いすとか使っている人を見てもおかしく思わないようになったよ。」と言ってくれたりして、みんな、ぼくを理解してくれようとしていた証だったのだと分かって、いやな気持ちもなくなり、自分から笑顔で説明できるようになりました。

みんなの気持ちが変わって、学校でもいろんな行事に積極的に参加できるようになりました。運動会も、ぼくが団にいたら徒競走などのポイントを落とすまいのに、誰もいやな顔をせず走り終わるまで「がんばれー。」と一生けん命応援してくれて、全力で走り抜けることができました。宿泊学習にも参加して、みんなの助けもあって、できる範囲でみんなと一緒に活動することができています。

ぼくは今年6年生です。中学生からの自立ということもあり交流級に行く機会が増えま

た。それに伴ってみんなに助けってもらう事がますます増えていきます。だからぼくは「ごめんね。」ではなく、「ありがとう。」を精一杯言うようにしています。そして、ぼくもみんなのために、誰かが困っていたら声をかけてあげたりなど、自分出来ることを積極的にがんばっています。

時々、ニュースで障害者を差別するような事件を聞くことがあります。ぼくはとても悲しい気持ちになります。ぼくは障害と言う言葉があまり好きではありません。障害の壁をなくそうと言っているのに言葉で区別ばかりしているはいつまでもその壁はなくなるならないと思います。ぼくが小学校で学んだことは、自分のことを知ってもらうことが大切だということです。みんながぼくのことを知ってくれたから、今とても楽しく学校に通っています。だから、障害のある人は、積極的に自分のことを知ってもらうようにした方がいいし、そうじゃない人は周りの障害のある人のことを積極的に知るようにして欲しいです。もし周りにいなくても本や新聞記事などを読んで読んで関心や興味を持ってもらえれば、先入観や偏見などではなく本当のことがわかると思います。そうすれば、ぼくと学校のみんなのように、仲間になれると思います。これは障害のことだけではなく、肌の色や性別なども同じだと思います。そういうことに関係なくその人自身をお互い知るようにすれば、みん

なが世界の一員として幸せになれると思います。だからぼくも、これからも積極的に自分のことを知ってもらい、また自分も周りの人のことを知るようにしていきたいです。それが、第一歩になるからです。

「中学生の部」

障害という個性を越えて
水見市立北部中学校一年 山田 美希さん

どうして神様は障害というものを与えたのだろう。」

ふと心の片隅で言っていました。この世界では、生まれつき障害をもった人がたくさんいることを初めて知りました。発達障害や聴覚障害など、私の知らない障害はたくさんあることを本で見つけました。この作文を読んでくださる方もこんな体感はないですか？例えば、いつも歩いている道には黄色いでこぼこしたタイルが並べてあったり、大きなショッピングモールの他目的トイレのウォシュレットにはつぶつぶとした点があるのを見たことはありませんか？実はこれらは全て、障害を持った人が快適に過ごすためにつくられたものなのです。私はどうして、このような物があるのか、どうしたらもっと障害を持った人々が快適に過ごすことができるのか、私が思う理想の未来についての思いをこの作文で伝えていけたら良いと思います。

「どうしたらもっと快適に障害をもった人達が暮らすことができるだろうか。」改めて考えてみると難しい事です。今の時代はどこにでもバリアフリーで聴覚障害や視覚障害に適した設備が整っています。私達の知らない所で技術は進化しています。しかしもっともっと居心地の良い世界を自分達の手で創るためはどうすれば良いか。そんな私にある言葉が入ってきました。

「車椅子で、一番嫌だったのは、周りの視線ですね。」

その瞬間、私は理解しました。どんなに良い製品をつくっても、一人一人が互いを理解し尊重しないとなんの意味もないということにどうして気付かなかったのでしょうか。こたえは簡単、私自身が一人一人を理解しようとしていなかったからです。クラスの中でも、「私とあの子は合わない。」という理由で自ら距離を置いたり、陰口をその人のいない所でたたいてはいないでしょうか。このクラスをよくある光景が、人種差別や、障害を持った人を非難するきっかけをつくっているのだと私は考えます。私もし障害をもっていたら、「私だって好きで障害をもっているわけじゃない。」と心の中で叫んでいると思います。例えば、ダウン症という障害をあなたが持っている、町中を歩いていて、

「あの子障害者だ。かわいそう。」
って言われたらどうします。きっと私だっ

たら偏見に嫌気がさし、部屋にとじこもったり最悪死を選ぶかもしれません。こんな環境を私達が創っているのです。またある日突然、交通事故で、足やうで、目を失ったらどうしますか。障害はある日突然、私達の身に襲いかかるのです。「私は障害者じゃないし。」そう言っていると、それは立派な人種差別になっています。同じ人間・日本人なのにどうしてこんなに、人は人を馬鹿にしないと気が済まないのでしょうか。そんな障害を持っている人にどうして偏見の目を世間は向けているのでしょうか。

最後に、「神様はどうして障害というものを与えたのだろう」という疑問に私は、神様はきっとその人にたくましく生きてほしいのだと思います。私は過去に補聴器をつけていた女の子と出会いました。女の子はにこにこくったくなく笑い接してくれました。私は障害とは、悪いものではないと思います。「障害」はその人の個性だと思います。なぜこう思うかという、障害はその人にとって大きな壁を壊すための武器でもあり、この先どんなに辛いことがあっても乗り越えられるからです。私達は「障害」という言葉にとらわれすぎだと思えます。障害など気にせず、みんなが社会に貢献するのが、「心の輪」を広げる大きなきっかけだと思います。この世界が「障害者」という偏見の言葉がなくなればいい、これが私の思いであり、一つの願望でもあります。

「高校生の部」

違いなんてない
富山県立南砺福野高等学校一年 松井 彩吹さん

中学校の夏休み。祖母と買い物に出かけたときだった。前日に練習試合があり疲れが溜っていたので、私は祖母に近くにあるイスのところで待っていると聞いた。

「ねえねえそのお嬢ちゃん。目が突然見えなくなったらどうする？」

と、突然隣に座っていた七十代くらいのおばあさんに話しかけられた。急に話しかけられた驚きと、問いかけられた問題の重みの驚きとで頭の中が混乱した。私はすぐに言葉を返すことができなかった。おばあさんはそんな私をおかまいなしでまた私に問いかけた。「障害のある人に偏見はあるかい？障害があることは悪いことなのかい？」

と。おばあさんの声は少し震えていて、どこか悲しそうだった。

「私は、障害に偏見もないし悪いことでもないと思います。だって誰も障害を持ちたくて持っているわけじゃないじゃないですか。でも、目が突然見えなくなったら障害者になったのかとショックを受けると思います。」
そうおばあさんに言った。自分が言っていることは、矛盾しているとわかっている。偏見がないと言っておきながら、障害者になっちゃったらショックだ、健常者ではなく障

害者のくくりに入れられるのが嫌だと。おばあさんは、私の手をにぎりたかったのか、私に手を出してと言ってきた。私はそんな目で見てにぎればいいじゃんと思ひ、おばあさんの方に目を向けた。すると、

「ごめんねお嬢ちゃん。私失明しとるんやちや。なにも見えないし、光もわからん。」

私はとても驚いた。最初に話しかけられたときと違う驚き。おばあさんは目が見えていない。全く気づかなかった。おばあさんはずっと優しい笑顔を浮かべていたし、目元のシワが多く目がよく見えなかったからだ。おばあさんは、手をにぎる力を強め、目が見えなくなつた経緯を教えてください。おばあさんは、中学生の頃に目の病気を患ひ高校生ときに両目を失明したらしい。目が見えないことが原因で思い通りに生活できないし、いやがらせをたくさんされ、最悪の選択をしようとしたこともある。私は、おばあさんが目が見えないというだけなのに、いやがらせを受ける理由がわからなかった。何も悪いことをしていないし、障害を持ちたくて持ったわけでもないのに。社会から拒否される存在になるのか、必要ない存在扱われるのか。なぜ、みんなそうするのか、どう考えてもわからなかった。私の肩にそっとおばあさんは手をのせてきて、静かに言った。

「障害者は、どんくさい。何もできない。社会にいと、邪魔なだけ。普通の人と違う、

へんな人だ。そういう固定概念がずっとあるからね。障害っていうからね。害っていうイメージが抜けないんだよ。」

私は、すごく悲しくなつた。障害者にも心があるのに。目が見えなくても、耳は聞こえるし、話すことだってできる。耳が聞こえなくても、目は見えるし、手話や筆談でコミュニケーションをとることもできる。体を動かすこともできる。体が不自由な人でもできることは必ずある。そう考えると健常者と全然変わらないと思う。おばあさんは、ゴソゴソと荷物を整理し、私の方を向いて言った。

「お嬢ちゃんと話せて良かったわ。ありがと。障害者と健常者との差が縮まる日が来るのは、まだまだだね。私たちには、人の力が必要なの。健常者だつて一緒なんや。小さな気づかいでいいから障害者に優しく接してあげて。その気づかいに救われるんや。」

そう言い残して杖をついて歩いて行つた。おばあさんと話して、障害ということに初めて深く考えた。いろんな気づきがあつた。障害者も健常者もどちらも変わらない。人の力がないと生きていけない。障害者は、自分でできることが少し少ないだけ。心もある。コミュニケーションもとれるから、思いを伝えることができる。みんなちゃんと向き合っていないだけ。固定概念があるだけ。だから、少しでも障害のある人とな人の距離を近づけられるように、自分ができることをしたい。

富山市安住町5-21サンシップとやま3階
TEL (076) 4321633
FAX (076) 43314610

精神障害者のひろば

「みんなねつとからの3つの提言」に思う

日本における精神科医療のあり方について、精神障害当事者を抱える私たち家族は様々な疑問を感じてきました。そこで、みんなねつと(公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会)では過去1年間をかけて『みんなねつと政策委員会』を中心これら問題についての検討が進められてきました。

その結果、問題の原因は個々の医療関係者に起因するのではなく、主として制度や仕組みの問題であることに気付かされたのです。

これらの予備検討を踏まえて、この度みんなねつとから「誰もが安心してかかりたいと思える精神科医療の実現」と題して「みんなねつと3つの提言」が示されました。この案は今後、全国の家族会から意見を聞き取った上で、必要に応じて修正が加えられたのち、国や自治体に精神保健福祉政策の改革案として働きかける基になるものです。

「みんなねつと3つの提言」は以下の3点で構成されています。

- 1. 市民のメンタルヘルスケアの充実
精神疾患の予防と早期発見、早期支援、重



障害者週間のポスター

中学生の部
「覚えよう つながろう」
射水市立小杉中学校2年
荒木愉陽さん

身体障害者のひろば

今年度、富山県身体障害者福祉協会では、コロナ禍の下計画していた事業について中止や延期が余儀なくされている中であつて、外出自粛による会員の体力低下や認知症の発症を予防するため、施設など現地に直接出向いてコロナ感染対策の確認を行い以下の事業を実施しました。

立山室堂と黒部ダム見学会

今年度、協会自主事業として10月14日、15日一泊二日において、初日は天候にも恵まれ立山博物館・遙望館・まんだら遊園を見学し立山信仰の歴史などを学び、二日目は早朝より黒部ダムを見学してきました。天候は、あいにく風が強く放流水が霧の



黒部ダム(放流水の吹上)

症化予防のための啓発教育の普及と地域メンタルヘルスサービスの構築

2. 精神科医療の一般化の実現

診療報酬や人員配置の水準を一般診療科と同等にする、医療保護入院の廃止、ほか

3. 薬物治療中心から心理社会的支援重視への転換

多職種チームによる訪問型支援・治療サービスの充実、ほか

今から70年ほど前(1950年代)の精神科医療は、ほとんど治らない病気、あるいは得体的知れない病気として家族を絶望に陥れていました。多くの当事者を長期間にわたって閉鎖病棟に「収容、隔離」する政策(社会防衛)は、1964年のライシャワー事件で加速しました。結果、現在でも1年以上の入院患者が①17万人を超える状況が続いていて、その中には受け皿(訪問支援等)が無く退院できない「社会的入院患者」が7万人とも言われています。このように、家族がこれまでどれほど医療に縋りついても、自分たちではどうすることも出来ない状況が続いてきました。今も家族は訪問支援が無い中「いつか治る、いつか良くなる」と願ひながら懸命に当事者を支えています。長期間回復しない中で悩み、苦しみ、経済的にも精神的にも追い詰められているのが実態なのです。

今回の「みんなねつと3つの提言」を機に、私たちは誰もが安心してかかりたいと思える

ように吹上げ、まるで雨が降っている状況でしたが初めての方も多くみなさん感動しておられました。

第22回フライングディスク競技会

ほとんどの事業が中止になる中、10月29日富山市文化体育センターにおいて、皆さん大変楽しみにしていた第22回フライングディスク競技会を開催しました。

今回の運営は参加者の協力のもと自前で準備や審判など行うとともに、ディスクの消毒などコロナ感染対策に十分配慮し、団体戦兼個人戦の1回戦のみの開催となりましたが無事終了することができました。



女性健康指導教室 (フワワーアレンジメント教室)開催

12月24日、コロナ禍の感染対策に配慮しながらフワワーアレンジメント教室を開催しました。

当日は、女性会員30名が参加し、花まつフワワーアカデミーから3名の講師の指導のもと、正月用花飾りとして松や千両、カーネーションなどを思い思いにオアシスに生けていました。



【お問い合わせ先】

一般社団法人富山県身体障害者福祉協会

精神科医療、そして将来に希望が持てる精神科医療に向けて、改革が加速されることを願う行動していきます(松村)。

【お問い合わせ先】

特定非営利活動法人

富山県精神保健福祉家族連合会

事務局 〒930-0085

富山市丸の内2-3-8 桜井ビル3F

TEL/FAX (076)461-7110

知的障害者のひろば

富山県手をつなぐ育成会

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、当会でも県大会をはじめ、研修会やイベントなどを中止せざるを得ず、大変残念な思いをしてきました。

しかしながら、少人数での学習会や、日常の悩みごとを話し合うワークショップなどの開催、感染予防に配慮しながらの障害当事者の活動の開催、そして、権利擁護推進委員会では富山市育成会と共に、来年度から「親亡き後学習会」で活用できるよう、親向け、障害当事者向けのハンドブック作成を進めてきました。

また、ステイホームの時間を利用して「富山版あんしんサポートノート」の記入を推進し、エリアでの勉強会や、学齢期会員を対象とした学習会も開催しました。

◆「あんしんサポートノート」の推進

「あんしんサポートノート」は、障害のある子どもの成育歴や親の思いを記録し、親亡き後、また、就学、就労とライフステージや支援者が変わっても、途切れなく、特性に合った支援を受けることができる『引継書』の役目を果たすものです。

障害のあるお子さんが幼児、学齢期の方は、今のうちからコツコツと記録を積み重ねていくことで、病院や学校、役所やサービス事業所で子どもの説明をする時に、大事なことを言い忘れたりせずに、情報を十分に伝えることができます。また、障害のある人にとって大切な「障害基礎年金」の申請時にも、保護者による申立書、医師による診断書の作成時に有効な資料にもなります。

お子さんが既に成人し、先のことは不安だけれど、何から考えれば良いかわからないという方は、まずはお子さんの基本情報(連絡先、保護者以外の緊急連絡先、療育手帳や受給者証、健康保険証、診察券、服薬の説明書、保険証書、年金証書など)を記録することをお勧めしています。同じ家族でも、どこにあるのか把握できていないことがありますので、情報をまとめたノートがどこにあるのか伝えておくだけでも、いざという時に役立ちます。

また、どの年代にも拘わらず、「医療情報」をまとめておくことも大切です。これまでの治療歴、健康状態、服薬歴等がまとめられて

いれば、緊急時にもノートを見ながら落ち着いて説明することができます。

もし、お子さんが一人で通院するようになり、親以外の誰かが通院に付き添うようになっても、情報が共有できるこのノートが手元があれば安心です。

「サポートノート」は、書いていくうちに、どこで暮らすのか、どんな支援を受けるのか、お金はどれくらい必要なのかなど、自ずと将来に思いを馳せることができるようになっていきます。そして、生まれてからの積み重ねた記録は、ライフステージが変わる時、親が支援できなくなった時、親亡き後、様々な場面で役立ちます。

今後「あんしんサポートノート」は、障害のあるお子さんの人生に寄り添い続けるノートということを、強くアピールして、記入の推進を図っていきます。



とやま版 あんしんサポートノート

◆親から地域社会へのバトンタッチ

富山市育成会では3年間にわたり、富山市から委託された「親亡き後相談支援研究事業」に取り組んできました。今年度は、コロナ禍によって学習会やセミナーが開催できなかったため、これまでの成果をまとめた親向けの

ブックレット、障害当事者用のリーフレットの作成を進めており、富山県育成会・権利擁護推進委員会もその企画検討会に参加協力をしています。

この2冊は、親亡き後に備えて、地域で安心した生活を送るために、どのような課題があった、どう向き合っていけば良いのか、気づきや手がかりを導く材料となります。完成後は、各エリアの育成会での学習会等で活用する予定としています。

【お問い合わせ先】

一般社団法人 富山県手をつなぐ育成会

〒930-0094

富山市安住町5番21号

TEL (076)441-7161

メール toikusei@minos.ocn.ne.jp

ホームページ http://toyamakusei.jp/

フェイスブック

https://www.facebook.com/toyamakuseikai/

視覚障害者のひろば

社会福祉法人

富山県視覚障害者協会だより

令和2年度日本視覚障害者団体連合

北信越ブロック大会」オンライン会議で開催

同大会は例年北信越ブロック各県協会が持ち回りで主管し、一堂に会して会議・研修に臨んでいます。今回は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、特別大会として12月

12日・13日、福井県視覚障害者協会を主会場にリモート開催となりました。

本年度は北信越ブロックの各事業がほとんど開催できなかったため、次年度事業の開催主管はそのままスライドすることも確認されています。したがって、本年度開催できなかった富山でのグラントソフトボール大会は令和3年度にそのまま持ち越される予定です。

視覚障害者にとつてのオンライン会議は健常者と基本的に同様で、感染リスクを避けて移動に要する労力・経費を軽減できる一方、発言のタイミングが微妙に取りにくく、結果として互いの気持ちが悪くなる懸念もあります。オンラインの良さは今後も取り入れつつ、やはり同じ空間で会って話すことができるようになりたいというのが多くの視覚障害者から聞こえる率直な思いです。

大会の主な講演内容や代表者会議の協議事項は次のとおりです。

1 講演

○情報保障について…読書バリアフリー法基本計画制定、障害者情報コミュニケーション保障法(仮称)制定、ほか

○外出支援について…同行援護事業の充実、鉄道駅の安全対策、ほか

○職業問題について…福祉と雇用の連携強化、施術所支援策、ほか

○権利保障について…障害者差別解消法改正、相談体制強化、ほか

2 代表者会議

○日視連理事會報告

●定款変更に伴う役員定数・評議員定数の変更、各地域から意見を吸い上げるための「全国団体長会議」の新設、ほか

○全国視覚障害者福祉大会への北信越ブロック提出議題について

●全国の駅における視覚障害者サポートやホームドアの設置等、安全確保に関する国や自治体、交通事業者への要望
●道の駅や鉄道駅トイレ等における視覚障害者用音声案内装置設置に関する国への要望

令和3年度前期の

主な事業計画(予定)をお知らせします。

●5月24・25日 岡山県

第74回全国視覚障害者福祉大会

●5月29・30日 富山市

第48回北信越グラントソフトボール大会

●6月13日

(福)富山県視覚障害者協会定期会員総会

●7月4日

ボランティアと利用者交流会

●8月22日

第70回点字競技会・第22回パソコン競技会

●9月4・5日 魚津市

視覚障害者と家族激励大会並びに研修会

●9月5・10月

第45回視覚障害者文化祭・福祉機器展